

「計画」

栗津中学校

令和8年度 我が校の学力向上策

【県目標】第Ⅲ期学力向上滋養プラン

夢と生きる力を育むために、子どもたちの主体的な活動を通して、学力を高める。

【令和8年度取組の重点】 子ども一人ひとりの「ワクワク」する学びへ

- 発達の段階を踏まえた言語活動の充実
- 1人1台端末等の効果的な活用
- 自分に合った学び方を身に付ける指導の推進

【市町の目標】

- 「一人ひとりが輝き、ともに未来を創る大津の教育」を実践する。

【学校の目標】

- インクルーシブ教育の視点をもって、全ての生徒が自分の考え等を表現できる力を身につけられる授業づくりを行うことを通して、生徒の主体的な学習を促し、学力を高める。

【現状と課題】

○視点1

(1) 「めあて」と「振り返り」を明確にした授業の構成や学び合い活動等の取組によって、生徒が他者との交流を通して学びの深まりを実感するようになってきている。一方で、学習課題を適切に設定することに課題があり、すべての生徒が主体的に取り組める授業づくりについては、さらなる探究が必要である。

(2) 一人一台端末の活用については、教員によって使用頻度にばらつきがあるものの、校内研究主任とICT担当が中心となって、「MetaMojii」や「eライブラリ」などの積極的な使用を促している。生徒用デジタル教科書については、今年度は校内授業研究会で実際に生徒用デジタル教科書を使用する授業を公開し、それを踏まえて協議をすることで、有効な活用の手立てを模索していきたい。

○視点2

基本的な知識の積み上げが不十分で、物事を深く考える力や先を見通した力が身につけにくい。また、自分の思いや考えを伝えたり、説明したりすることを苦手とする生徒が少なくない。

○視点3

教員の授業指導や学級経営、さらには生徒指導に関する力量が高まるよう、OJT担当が中心となって組織力と全職員の資質を高めていく必要がある。

取組事項および評価指標

※評価指標には、目標値を記入してください。

(例) 県学びのアンケート（児童生徒）「わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、自分から取り組んでいたと思いますか」 **肯定的な回答80%以上 ← 目標値**

【視点1】子どもたちが主体の授業づくり

取組事項	評価指標
①すべての生徒が意見や考えをもてるような学習課題の設定を工夫し（特に難易度別のジャンプ課題を用意し、生徒各々が自ら選択する）、「わかる」「できる」を実感できることを目指した授業づくりを行う。	①学習課題の設定を工夫するとともに、単元や毎時間の「めあて」を明確にし、生徒が学びを深めることができる「振り返り」の時間を設けることができた。
②単元や指導内容に応じて一人一台端末の活用を促し、学習内容を振り返ったり、意見を共有したりする授業づくりを行う。	②ペアや班学習を適宜盛り込んだり、ICTを活用したりして、生徒が意見や考えの交流をしやすいことができた。
	③「学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善ができた」 【学校評価アンケート評価80%】

【視点2】学びを支え合う集団づくり

取組事項	評価指標
①すべての生徒が対話的・協働的な学びを実現し、安心して学習に取り組める集団を目指す。	①インクルーシブ教育の視点をもって、どの生徒にも活躍の場を設定するように努めた。
	②ICT等の様々な手法を用いることで生徒が意見や考えを出しやすくし、他者の意見や考えを尊重するようできた。
	③授業では先生達がいろんな工夫（教材やペア・班学習等）をしてくれている。【学校振り返りシート評価75%】

【視点3】協働して取り組む学校づくり	
取組事項	評価指標
①校内研究やOJTを推進し、ミドルリーダーを核として若手教員はもとより、全校体制で生徒の学び力を育成するための指導力・授業力の向上を図る。	①授業参観や校内研修、OJT研修で、異なる年齢層や教科の教員と交流したり、相談したりすることを通して、授業や学級経営、生徒指導の改善を図ることができた。
	②有効であった教材・教具のデータ等を他の教員と共有したり、それを活用したりできた。
	・学級の雰囲気はよく、集団としての活動や取り組みは積極的である。 【学校振り返りシート85%】

◇「学び力向上策」の実効性を高めるために、職員全体で共通理解・共通実践し、検証・改善していく時期や手立て等

- ・校内研修会の場合等で、年度当初に学び力向上推進の組織を明確にして、すべての教員で共有する。また、課題について全職員の共通理解を図り、計画的に進める。
- ・研究授業の際に、校内研究部を中心に授業づくりに関わり、インクルーシブ教育の視点が入っているかや学習課題の適切な設定について、検討する。
- ・インクルーシブ教育のあり方についての研修を、校内研究時に取り入れる。
- ・年度の途中でそれまでの取組状況を確認して、その後の取組方針を明確にする。
- ・時間割や月中行事予定に、OJT研修会を明示することで、活発で計画的なOJTを進める。